

●大人になっても家族によって心理的に支配される場合はある

家庭内での身体的暴力や心理的な言葉の暴力、子どもの養育を放棄するネグレクト、金銭的な圧力によって子どもを支配しようとするなどのDV(Domestic Violence)は残念ながら増加の一途をたどっています([令和4年度児童虐待相談対応件数 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp) (2023年12月21日)参照)。

子どもの目の前で家族に暴力を奮う**面前暴力**もDVの一つです。見ている子どもにも心理的な恐怖感を与えるためです。

これらは小中学生などの、いわゆる児童相談所で保護できる年齢の子どもだけが対象なのではありません。

そのような面前暴力が繰り返されてきた子どもは**大人になっても心理的な支配から抜け出せない場合があります**。

もしもあなたがDV経験者なら

幼少時から力によって支配されてきた子どもが、その圧力から自らの意思で抜け出すことは容易ではありません。大学生はまさに自立に向けてのエネルギーが高まってくる時期ですが、自分だけの力ではそのような家族の束縛からのがれるのは心理的に非常に難しいことです。

しかし、**子どもから大人になるこの時期は、適切に話を聴いてくれ、社会的に適応している大人と出会うことによって、自ら考え、自分の将来について自分で選択する力が身に着く時期です**。それは大学の先生や、先輩や、友人や、時にはカウンセラーであったりするかもしれません。

家族との関係、また、恋人との関係などで悩んだ時も、ほんの少し勇気を出して、信頼できる人に話してみましよう。身近にそういう人がいなかったら、一度カウンセラーに話してみてください。